

2024年4月8日

令和6年度第2回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和6年4月8日（月）14:00～17:00

開催場所：土木学会 A 会議室

出席者：【対面】森委員長，渡部副委員長，北野幹事長，内山，遠藤，川崎，木原，嶋原，高川，田島，西畑，山城【Zoom】有川，有働，大井，加藤，越村，下園，中村，原田，保坂，安田，山中（中下代理），渡辺（敬称略，五十音順）

議事録：嶋原，北野

■議事前報告および議事録の確認（WEB 公開済）

前回委員会の議事録（WEB 公開済）を確認した。

■第70回海岸工学講演会 & APAC の開催報告（原田）

確定参加数は以下の通り。

- ・ 海岸工学講演会：784
- ・ 海岸工学企画セッション1：149，企画セッション2：227，企画セッション3：49
- ・ APAC2023 合計（登録数）：290名 参加国：日本，中国，韓国など

■第71回海岸工学講演会論文審査（山城）

登録論文数：290編

（実際には295編の投稿があったが，4編は重複，1編は取り下げ）

- ・ 内訳：和文：270，英文：20
- ・ 過去5年はそれぞれ 219, 248, 258, 306, 321 編
- ・ 投稿論文にもとづいた企画セッションは開催されない

査読者割り当て

- ・ 主査，論文集編集小委，その他の各グループから第2専門分野まで配慮
- ・ 主査：11.2編/人，副査（編集小委：10.2編/人，その他：4.9編/人）

査読受諾意思確認

- ・ 主査26名，副査85名（編集小委：31名，その他：54名），計111名（昨年度：122名）

論文発表審査手順

- ・ 査読者：主査1名
- ・ 海岸工学講演会での講演にふさわしいかなどの観点から判断し，「A, B) ふさわしい」，「C) 懸念がある」，「D) ふさわしくない」のいずれかを Google フォームで報告。割り当て以外の論文でも気になるものがあれば報告

査読結果と採択

- ・ 幹事会で議論し，C判定以上を採択：採択論文数289編に決定した。
（2023年200編，2022年226編，2021年230編，2020年265編，2019年273編，2018年267編）

論文発表審査に関する報告

- ・ 論文ID通知メールが届かないトラブルが生じた
 - 未受信の連絡：32件（3月末時点）。最終日の13時台と15時台に集中

- 論文 ID 通知メールは Google Apps Script を利用して送信。最終日にエラー率が急激に上昇（前日まではエラーなし）。エラー内容はすべて「Exception: Service invoked too many times for one day: email.」
- 論文 ID 通知メールの送信は新規時，更新時ともにしていたが，新規時のみに送信するようにして送信件数を減らす対応をした。
- Google フォームからのメール（forms-receipts-noreply @google.com からのメール）は更新時にも送付される
- 新規投稿は前日までに早めにしてもらう

著者負担金と論文集 DVD 価格

- ・ 著者負担金 40,000 円（上限）（見込み 35,000 円）
 - 各論文投稿に対し，論文集 DVD を配布予定
 - 論文集 DVD のみの頒布も予定：3,000 円程度
 - 特別号論文掲載＋発表：35,000 円（従来案） → 40,000 円
 - 要旨論文＋発表：20,000 円（従来案） → 25,000 円
- ・ 4 万円以上の負担金の増額をできる限り回避する。
- ・ Jstage 掲載料は 1.5 倍に値上がり（北大生協→アイワード） → 2023 年度は，著者負担金の増額は，なんとか回避した。

今後発表論文数が増えていく可能性に対する対応について

- ・ 発表・質疑の時間の短縮，要旨審査を厳しくする，開催日の増加，などが候補
- ・ 公平感があつた方がよい。開催地の状況次第で判断。

■第 71 回海岸工学講演会の準備状況について（渡辺）

現状は以下の通り

- ・ 実行委員会：田中（実行委員長，東北大），今村・越村・有働・アナワット・エリック（東北大），小笠原・松林（岩手大），菅原（東北工大），三戸部（東北学院大），門廻・平川・齋藤・渡辺（秋田大）
- ・ 日程：2024 年 11 月 6 日（水）～8 日（金），対面実施
- ・ 会場：アトリオン（秋田市）
- ・ 見学会は日程も含め調整中
- ・ 懇親会：ANA クラウンプラザ
- ・ 講演会会場第 1－5 会場，委員会室 2
- ・ 補助は秋田市（コンベンション）へ依頼。参加人数（記帳）で決まる。
- ・ 秋田県・秋田市から後援の許可をいただいた。

前日シンポの提案

- ・ 沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会からの報告
- ・ 日本海の津波リスクも含めて能登半島地震津波の特別セッション

■第 72 回海岸工学講演会の準備状況について（中下（代理：山中））

現状は以下の通り

- ・ 実行委員会：石塚（実行委員長，香川大），末永・吉田・金田・野本（相談役，香川大），柳川・高橋（香川高専），上月・山中・松重（徳島大），日向（愛媛大），佐藤（高知科大），奥田・亀岡・高木（四国地整），中下（広島大）
- ・ 日程 2025 年 11 月 25 日（火）～11 月 28 日（金）
- ・ 会場：サンポート高松シンボルタワー（サンポートホール高松会議室・かがわ国際会議場）

- ・ 懇親会(11/27)：JR ホテルクレメント高松（講演会会場横），19:00-21:00，200名．
- ・ 第1－第4会場，委員会用2部屋．第5会場は2日目までは確保（3日目に先約あり）．
- ・ 会場費見込み：119万
- ・ 設営業者等はこれから検討．

その他

- ・ 当日の運営において実働人数は不足している．学生アルバイトの確保も不安．
- ・ 今後開催する予定の地域（九州，中部）にサポートを依頼（11月の委員会で決定済み）．

■第59回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（遠藤）

主担当は海岸工学委員会．準備状況は以下の通り

- ・ テーマ：水工学分野に関するモニタリング技術
- ・ 日程：2024年8月29日（木），30日（金）
- ・ 会場：大阪公立大学杉本キャンパス8号館
- ・ 形式：対面（オンデマンドなし）
- ・ Aコース：120名，Bコース：120名
- ・ 担当者
 - Aコース：山口（京大防災研），佐山（京大防災研）
 - Bコース：遠藤（阪公大），中條（阪公大）
 - 土木学会（事務局）：那須さん
 - 学生アルバイト：阪公大で手配
- ・ 参加費：一般16,000円，学生10,000円
- ・ 講師：A，B各コース6名，共通セッション2名

■第60回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について（北野）

主担当は水工学委員会．準備状況は以下の通り

- ・ 開催地：福岡市（博多駅周辺を想定）
- ・ 開催時期：8月末頃
- ・ 開催形式：対面＋オンデマンド
- ・ 責任者：渡部先生（九大），サポート：丸谷先生，矢野先生
- ・ テーマ案：気候変動研究に資するデータやモデルについて
- ・ 演者と参加者での懇親会を企画予定
- ・ 九大 山城先生には，海岸工学としての対応を依頼し，ご快諾．

■Coastal Engineering Journal について（内山）

IFが2.4に減少

- ・ 昨年は3.289
- ・ 2020のデジタルコンテンツ重視導入効果の期限切れ，Citation数の漸減

メンバー変更

- ・ 1名追加：高島（近畿大）
- ・ Ravindra Jayaratne (Univ. East London, U.K.) が Editor に．

出版状況

- ・ CEJ 2023 Nov., Vol. 65, Issue 4 が紹介された（8編で構成，2編はテクニカルノート）
- ・ 2024 CEJ Special Issue 「Progress of Ocean Wave Measurements」が紹介された
 - CEJ 2024 March, Vol. 66, Issue 1 (SI)
 - 13編予定（Preface含む．2編繰り越し中）

- Publication: March, 2024
- 2025 CEJ Special Issue 「Interdisciplinary Exploration of Coastal Morphodynamics」についてスケジュールは以下の通り。
 - First Application (title and abstract via Google Forms): Dec. 1, 2023
 - Full Papers Due: April 1, 2024
 - Advance Online Publication: immediately
 - Publication: March, 2025
 - 徐々に投稿が集まっている状況

投稿数・国別内訳

- 2023年 161編（日本 21編）。昨年は 143編
- 2024年 4月 1日現在, 48編
- 全体的な投稿数は増加（東南アジア, 欧米, 中東など）。日本は徐々に減少傾向。

表彰関連の審議

CEJ 2023

- 2023年に出版された全 33編の論文のうち, 各担当エディターが受賞候補論文を推薦+ AE・GEを含む全エディターによる推薦。推薦された論文が3編を超える場合, Editor-in-Chief と Associate Editors-in-Chief が3編に絞り, 最終選考候補論文とする
- 13編の候補論文が推薦され, うち3編を最終選考候補論文とした。最終選考候補論文3編に対して全エディターによって全文審査を行い, 投票によって最多得票の論文を CEJ Award 候補論文とする
- “Grain-scale investigation of swash zone sediment transport on a gravel beach using DEM-MPS coupled scheme” by Takumi Tazaki, Eiji Harada & Hitoshi Gotoh を受賞論文とした

CEJ Citation Award 2023

- 学際的な分野に科学的・工学的に大きな影響を与えた業績を表彰するもので, 毎年。過去5年間の全ジャーナルの総引用回数で決定される。旧受賞者は CEJ 委員会の内規により免除される。
- “An enhanced multiphase ISPH-based method for accurate modeling of oil spill” by Yuma Shimizu, Abbas Khayyer, Hitoshi Gotoh & Ken Nagashima を受賞論文とした

JAMSTEC 中西賞

- 海岸工学委員会が推薦, 海洋工学会で表彰。選考のプライオリティは, (1)CEJ Award 受賞者, (2)CEJ Award の著者が対象（日本人）でない場合, その選考の次点のもの, (3)次点にも対象がない場合, CEJ 出版論文のうち対象論文を CEJ 小委員会が全文審査, とする。本年の CEJ Award 対象論文は (1)のケースに該当。
- “Grain-scale investigation of swash zone sediment transport on a gravel beach using DEM-MPS coupled scheme” by Takumi Tazaki, Eiji Harada & Hitoshi Gotoh を受賞論文とした

CEJ Reviewer Award 2023

- CEJ の査読に協力的な査読者を表彰。
- CEJ 小委員会案: 4編以上を平均遅延 0日 で完了した 9名を表彰 (過去の基準を踏襲)。
- T&F の HP で氏名を公表し, Certificate を EiC 名で発行し, PDF で電子発送。
- 表彰のタイミングは 6月の委員会で承認後, CEJ Award 等と合わせる。
- 今後は 4回目以上の受賞者に対しては, Reviewer Award のノミネートを行わないこととした (新たな査読者の開拓を志向するため)。

その他

- 投稿数の大幅な増加により, Editor Rejection が増加した。
- Special issue 2026 の企画 案: 能登半島地震津波 (再来年まで待たずに出版してもよい), 途上国の海岸工学など。今後詳細を決定する予定

■沿岸域研究連携推進小委員会（遠藤）

今回報告することは、特に無し。（昨年、海岸工学講演会での前日シンポ開催）

■広報・出版・WEB 開催小委員会（嶋原）

役職の交代

- ・ 荒木（小委員長→顧問）、嶋原（小委員長）

広報関連

- ・ 災害 DB の順次補充 → 能登半島地震津波の追加，リンク先の整理（全般）が必要

出版関連

- ・ 71 回海岸工学講演会の論文集出版はこれから作業を開始，広告募集も進める。

- ・ 講演会（秋田）での Web 開催の支援はなし（対面のみ）

その他

- ・ 海岸工学論文集データベースについて，J-STAGE で海講論文が検索できる現在，委員会 HP で検索を提供する必要性について意見が出された。

- ・ 海岸工学講演会論文集，海岸工学論文集，土木学会論文集 B2（海岸工学）など，名称が異なっても統一的に検索可能でシステムが軽いのが長所だが，データベースに新たな情報を追加する際はデータの確認作業が必要（副委員長が担当）。近年の論文フォーマットの変更等もあり，非常に煩雑で担当者の負担も大。データ提供のための経費もそれなりにかかっている

- ・ データベースもすでに古く，今後委員会サイトのシステムが更新される場合，問題なく動作するかは不明

- ・ 幹事会で議論した結果，データベース自体は動作する限り委員会 HP に残し，データの更新は終了する方針とする。6月の委員会で諮る予定

■研究小委員会，研究会，WG の活動について（事前送付）

沿岸まちづくりにおける経済的手法検討小委員会（安田）

- ・ 11/5(火)，海岸工学講演会（秋田）にて，前日シンポジウムの実施を企画

- ・ 高知県の取りまとめが公表（リアルタイム分析）

沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村）

- ・ Elsevier Book Chapter（January 2024）のチャプター発刊予定

- ・ 海岸工学前日シンポジウム（2023年11月14日）を開催

- ・ R6 年能登半島地震津波の調査・分析を進める。

波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会

- ・ 「波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会」の英語版を出版

（April 17, 2024）cecom への案内，委員会 HP に掲載済み。

沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）

波動モデル研究会（事前送付のみ）

地域研究活性化 WG（事前送付のみ）

■その他

サーバーセキュリティ対策特命 WG（川崎）

主な業務内容は以下の通り

- ・ 海岸工学委員会サーバーの管理・運用
- ・ メールアドレス・メーリングリストの管理・運用
- ・ 新論文投稿・査読システムとの連携検討

今後の主な作業は以下の通り

- ・ メーリングリストの管理・運用手引きの作成
- ・ 管理・運用体制の確認
- ・ cecom への登録方法について今後周知する予定

海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG（北野）

- ・ 投稿者用、主査・副査用の説明会をそれぞれ複数回実施した（今後も予定されている）
- ・ Jstage 論文審査での主査から事務局への報告は、Microsoft フォームに変更予定

省庁連携特命 WG（田島）

- ・ 官の方々の異動も予想されたこともあり、年度も明けたので、日程調整を始める予定

海岸工学 2040 特命 WG（渡部）

- ・ これからの海岸工学のフロンティア、学会が考える研究の方向性を議論
- ・ 23 年 12 月に cecom で案内、1/11 にオンライン説明会を実施。現在 47 名登録
- ・ 海岸工学が目指すべき目標（プログレス）を募集中

第 4 回日中土木学会ジョイントシンポジウム（北野）

- ・ 開催延期の現状で、10 月 9 日（水）～12 日（土）に開催予定。
- ・ 日本側の予算で、若手研究者に対して、一人 10 万円旅費補助（合計 10 名枠）を予定

ICCE（森）

- ・ 2028 年に大阪（大阪府立国際会議場）での開催を招致する方針。仮予約済
- ・ 9/10-15 の機関を予定。海岸工学委員会がホスト
- ・ Conference Chairs は森先生、田島先生
- ・ 10F を貸し切り（ホール、5 会場、ポスター会場）
- ・ 参加料は検討中（円ベースで）

能登半島地震調査グループについて（越村）

- ・ 金沢での現地報告会、CEJ への論文投稿、データとして Scientific Data へ投稿中。
- ・ 今後、災害調査に対する全体の方針を確認することが必要

委員会予算について、昨年度は 40 万円程度の残額は、海岸工学委員会として使うことなく土木学会本部に返上した。上半期、下半期で、小委員会、研究会、WG などから、参加費無料の行事を開催していただくなどの有効な予算の使い方の提案をしていただくこととした。委員ならびに幹事のメンバーには、近日中に、提案を募るフォームを送ることとした。

以上